

## 令和4年度 第3回 長野県教科用図書選定審議会 議事録

- 1 日時 令和4年8月4日(木) 午後2時～午後4時  
2 会場 長野県庁3階 特別会議室  
3 出席者 委員：青木委員 大田委員 鎌田委員 久保田委員 武田委員 横川委員 池田委員  
赤羽委員 馬島委員 宮川委員 矢島委員 両角委員 水口委員 田仲委員  
幹事：今井教育次長 曾根原学びの改革支援課長 他

### 4 内容

#### (1) 経過報告

##### 【事務局】

第2回審議会では、特別支援学校小・中学部及び小・中学校特別支援学級において教科用図書として使用する「一般図書」の「選定に必要な資料」について、調査員の説明を基にご審議いただきました。ここで答申いただきました「選定に必要な資料」につきましても、市町村教育委員会及び所管する特別支援学校等に送付いたしました。県立特別支援学校では、県からの資料を基に、各校で「校内調査委員会」を設置し、そこで検討した結果を「希望図書一覧表」「リスト外図書採択希望届」として県教育委員会に提出していただきました。各校からの「希望図書一覧表」を集計したものは、本日の資料として皆様のお手元に配布させていただいております。これをもとに、県教育委員会事務局内における調査検討委員会で、希望の理由にきちんとした根拠があるか、また、適切かということについて検討いたしました。

本日は、県立特別支援学校において教科用図書として使用する一般図書の採択について審議いただきます。なお、採択につきましては、8月19日の定例教育委員会で審議されます。以上です。

#### (2) 議事

##### ①義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第2項に基づく、選定審議会の意見聴取について

##### ○県立特別支援学校小・中学部において教科用図書として使用する一般図書の選定図書について

##### 【水口会長】

本日は、諮問事項「県立特別支援学校において教科用図書として使用する一般図書の採択について」審議いたします。「一般図書の各校からの希望の状況」について、事務局から説明願います。

##### 【事務局】

特別支援学級や特別支援学校のお子さんで、教科書の使用が適していない場合に、教科書の代わりとなる絵本などの「一般図書」を採択することができます。一般図書の選定にあたり、文科省作成の「次年度用の一般図書一覧」を参照してきましたが、昨年度より、「次年度用の一般図書一覧」の作成が行われなくなったことを受け、「令和4年度用一般図書契約予定一覧」を一般図書の「リスト」として使用しております。この「リスト」には、3622冊を掲載しております。各校からは、一般図書の希望として、この「リスト」のものと、「リスト」外のものが希望図書として挙げられてきます。「リスト」内の図書については、体裁や値段も適当なもの、供給が可能なものとなっています。一方の「リスト」外の図書の採択に際しては、留意事項が6点挙げられています。資料には、こうした図書の採択の例として、A校小学部B児のケースを載せました。この例では、国語、算数、音楽、道徳は①の検定済み教科書を、社会、図工、家庭科は「リスト」内から一般図書を、そして、理科は、「リスト」外の図書というように、子どもの実態に合わせ採択ができるようになっています。

それでは、令和5年度の県立特別支援学校において教科用図書として使用する一般図書の採択についてです。

資料1ページをご覧ください。一般図書等の採択希望数の一覧になります。今年度は、9,595冊の一般図書の採択希望が寄せられました。続いて、資料の3ページから20ページをご覧ください。こちらは「リスト」内の図

書の採択希望の一覧の通りです。

資料21ページをご覧ください。「リスト」外のそれぞれの図書について、該当3の学校から提出された「リスト外図書希望届」を受け、2ページにあります留意事項にてらし、長野県教育委員会事務局内調査検討委員会が、調査検討を行いました。該当の4冊につきましては、来年度の供給が可能なこと、使用する生徒の実態等を踏まえ、4冊すべて採択したいと考えております。

## ②教科用図書の選定図書に関する教育委員会への答申（案）について

### 【水口会長】

委員の皆様には、慎重にご審議いただきありがとうございます。では、議事にうつります。各学校から出された選定図書につきまして、「長野県教育委員会定例会に提出することを適当と認める」として、答申することとしてよいでしょうか。

< 委員賛成 >

以上で、全ての審議を終わります。来年度の審議会の運営につきまして、建設的な意見をご提案ください。様々な点からご発言ください。

### 【武田委員】

学校では、リストを用いて選定を行なっているが、その子にあっているかどうか判断しながら選んでいる。リストに掲載されている図書が多くて大変だが、リストを厳選したりホームページ等で図書を確認したりしながら選定している。

### 【青木委員】

本校では子供たちに必要な教科用図書を全て集めて展示して、200～300冊の中から選んでいる。

### 【鎌田委員】

年々リストは増えていくが、これは適切だというものを推薦し、ある程度の枠でやっている。時代の背景も考慮し、子供に適切な図書を考えている。

### 【馬島委員】

ICTについては、特別支援では効果的な使い方がなされているが、デジタル教科書の導入やICTの流れを踏まえていく必要があるのではと考える。

### 【大石幹事】

ICTに関わる人的体制の面では、各学校に推進担当者を置き一人一台端末の活用について進めている。ブロックリーダーを置き、地域の小中学校とのつながりを考慮しながら進めている。

### 【宮川委員】

これだけ丁寧に審議していただいていることを知ることができた。ここで選ばれるものがどんな形で学校へ伝わっていくのか、先生の思いが詰まっていてびっくりした。多くの方々に関わっていただくことに感謝です。新しいことを見つけ出していくこと、他県や周囲にも影響していくのではと思う。

### 【矢島委員】

こうやって教科用図書が選ばれていることを初めて知った。日々の業務が大変な中負担の多い中で、先生方の負担を減らせるように考えていただけたらと思う。小学校・中学校の一人一台端末に入れることで見ることができる図書等も必要になってくるのではと思う。

### 【水口会長】

いただいたご意見を今後活かしてまいりたいと思います。

## (3) 答申

(水口会長から今井教育次長へ答申書手交)